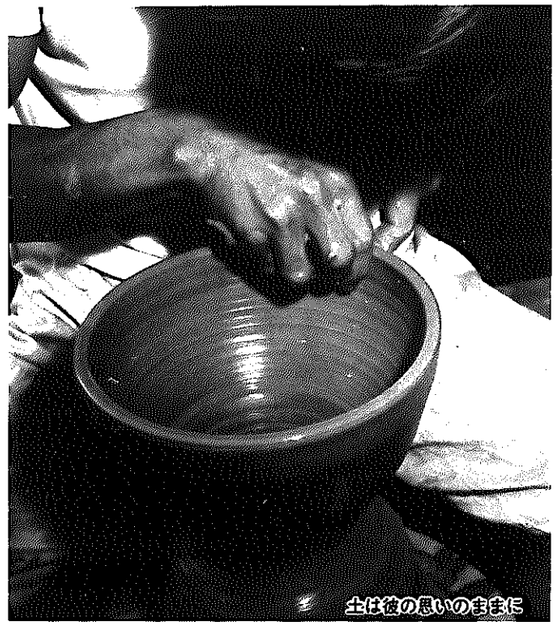
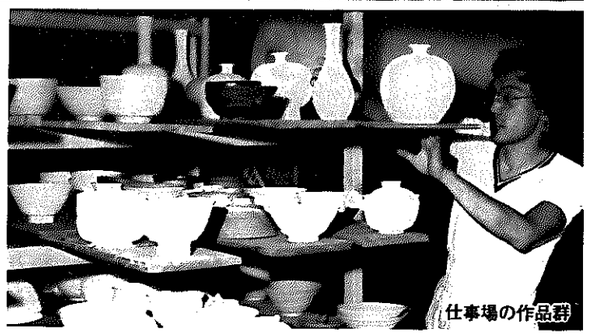


土は彼の思いのままに

土を練る。手のふるえがしばらく止まらないという

ロクロは昔ながらの蹴り技法で



仕事場の作品群

この道この人

陶芸の粋を追い求め

高橋裕雄さん（29歳・大通団地東）

「フウッフウッ」と土を練る高橋さんの手に力が入り、額にはうっすらと汗がにじむ。

練られた土はロクロの上へ。足でロクロを蹴り、顔を土にほおずり寄せて黙々と形をとる。指先の動きに合わせ、土は生き物のように伸び、広がり、一枚の大皿となる。

小学生のころから美術に興味をもっていた彼は、全国各地の〝美〟を求めて旅をすることが好きで、二十三歳の時に唐津焼（佐賀県）の窯元で二年間修業し、この道に。

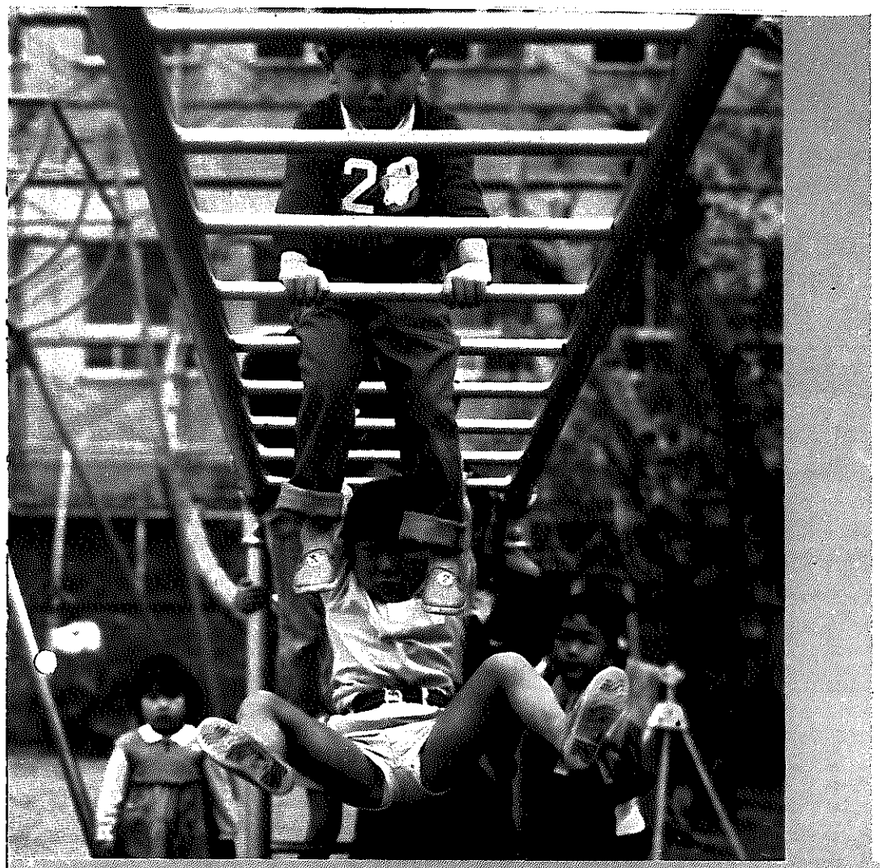
陶器展などでの彼の作品の評価は「作風が広い」という――焼シメからジキ焼まで、一つのものにとらわれず、いろいろなものを作る。こんなことから土も特定のものに決めてはいない。作るものが決まってしまい、おもしろ味がなくなるからだそうだ。

しかし、いずれは機械化と手作りの両面を使い分けた陶器作りを考えている。これは、機械で作れるものは機械にまかせて作業の省力化をはかり、人間でしか作れないものの完成をめざし、力を注いで行きたいからだという。

「手作り、民芸的嗜好に便乗し、機械で作れるものまで手作りしている今の風潮が、あまり好きじゃない。そこには発展性もないしけっして良いものは生まれてこないと思っている」と、今日のように機械化文明の発達している中で陶器作りも発想の転換をする必要があると語る。

作品の価値は歴史が作る――そのためにも、現代の人たちから大切にしてもらい後世に残るものを作りたいと彼は願っている。

土探しから一つのものを焼き上げるまで、毎日〳〵幾多の行程をくり返し技を磨く彼は、陶器作りに励んでいる本当の心を持つ友との出会いを楽しみにしている。



市政の主役はあなたです。みんなの意見で住みよいまちづくり

あなたの声を市政に

テレホンサービス

こんなときには…このダイヤルを

市政ダイヤル ☎73-3931

▷交通事故相談 ▷融資 ▷停電 ▷市議会の開催 ▷納税などが知りたいとき。

保健ダイヤル ☎73-3932

▷日曜・祝日の当番医 ▷予防接種 ▷健康相談・保健関係の案内が知りたいとき。

情報ダイヤル ☎73-3933

▷教育センター、公民館をはじめスポーツ、レクリエーションなどの催し物が知りたいとき。

このハガキは、料金受取人払いです。切手をはらずに、そのままポストに入れてください。ハガキの差し出し期限は、五十八年三月三十一日までです。どしどしお寄せください。

あなたの声を市政に

市政への要望・苦情・アイデアなど気軽にお寄せください

▼回答の必要なかたは、記入してください。

あなたの名前	男女　歳
おところ 白根市大字	番地 ☎